

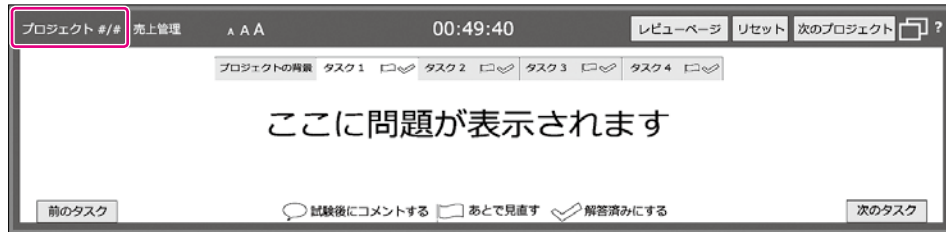
3

MOS 2016の攻略ポイント

本試験に取り組む際に、どうすれば効果的に解答できるのか、どうすればうっかりミスをなくすることができるのかなど、気を付けたいポイントを確認しましょう。

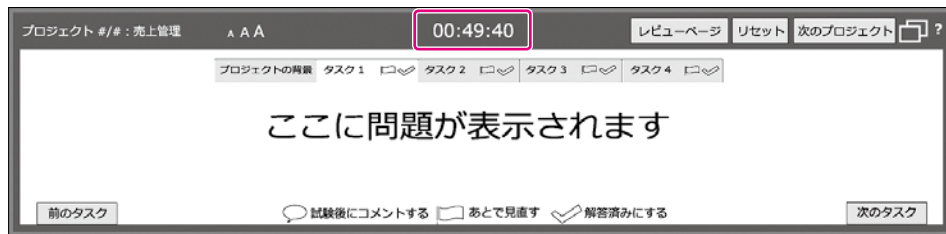
1 全体のプロジェクト数を確認しよう

試験が始まったら、まず、全体のプロジェクト数を確認しましょう。
出題されるプロジェクト数は5~7個となっており、試験パターンによって変わります。



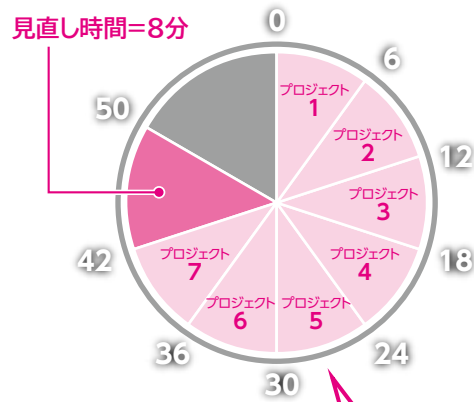
2 時間配分を考えよう

全体のプロジェクト数を確認したら、適切な時間配分を考えましょう。
タイマーにとどきどき目をやり、進み具合と残り時間を確認しながら進めましょう。

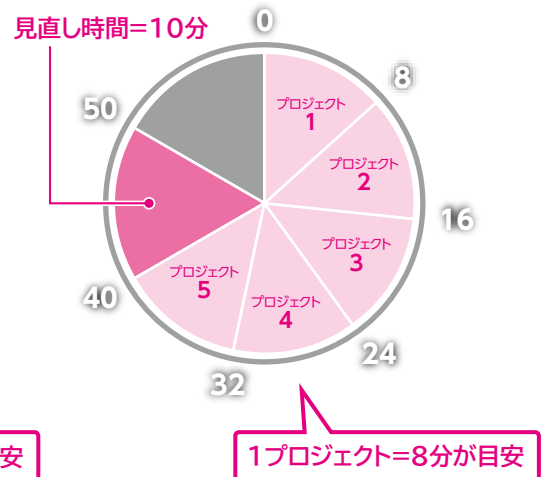


終盤の問題で焦らないために、40分前後ですべての問題に解答できるようにトレーニングしておくといでしょう。残った時間を見直しに充てるようにすると、気持ち楽になります。

【例】
全体のプロジェクト数が7問の場合



【例】
全体のプロジェクト数が5問の場合

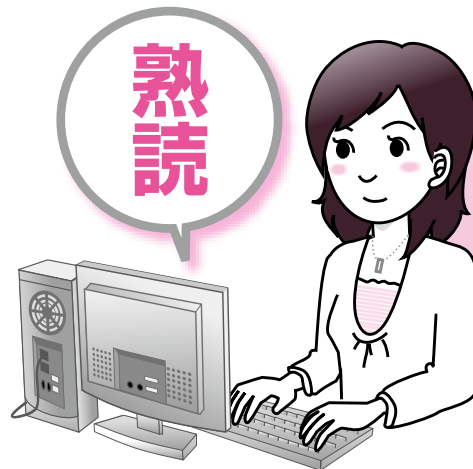


3 問題文をよく読もう

問題文をよく読み、指示されている操作だけを行います。

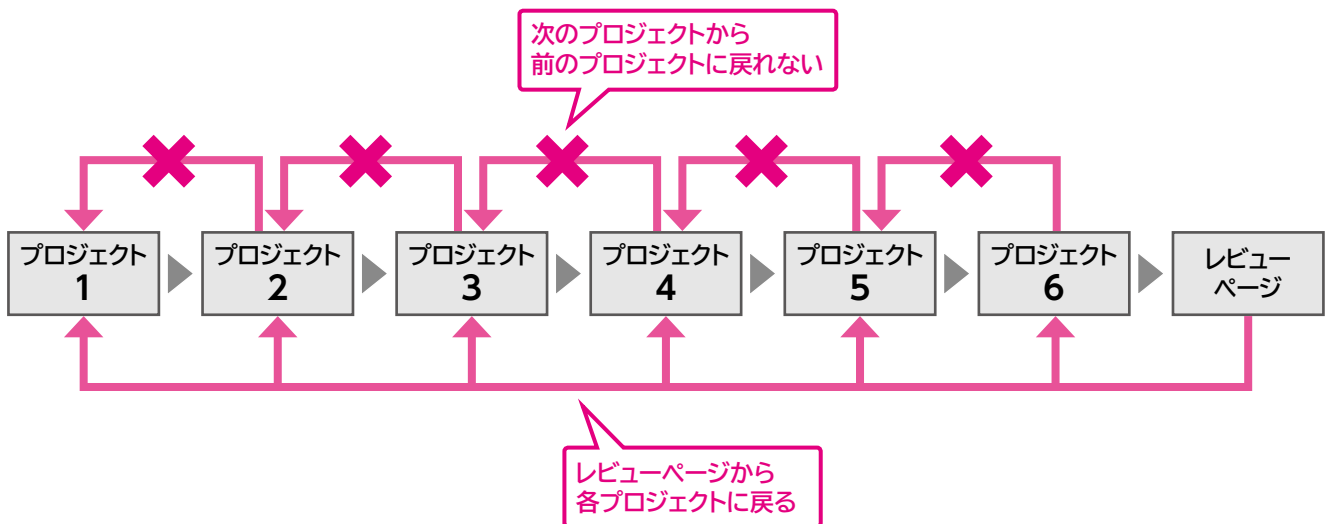
操作に精通していると過信している人は、問題文をよく読まずに先走ったり、指示されている以上の操作までしてしまったり、という過ちをおかしがちです。指示されていない余分な操作をしてはいけません。

また、コマンド名が明示されていない問題も出題されます。問題文をしっかり読んでどのコマンドを使うのか判断しましょう。



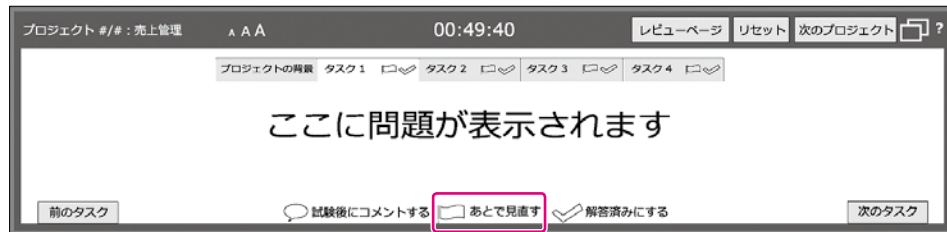
4 プロジェクト間の行き来に注意しよう

プロジェクト間の行き来は制限されているので、注意が必要です。例えば、「プロジェクト1」から「プロジェクト2」に切り替えた直後に、「プロジェクト2」から「プロジェクト1」に戻ることはできません。「プロジェクト2」に進んだ後で「プロジェクト1」に戻るには、レビューページから戻るしか方法はありません。



5 わかる問題から解答しよう

試験の最後に、レビューページから各プロジェクトに戻ることができるので、わからない問題にはあとから取り組むようにしましょう。前半でわからない問題に時間をかけ過ぎると、後半で時間不足に陥ってしまいます。時間がなくなると、焦ってしまい、冷静に考えれば解ける問題にも対処できなくなります。わかる問題を一通り解いて確実に得点を積み上げましょう。解答できなかった問題には《あとで見直す》のマークを付けておき、見直す際の目印にしましょう。




6 リセットに注意しよう

《リセット》をクリックすると、現在表示されているプロジェクトのファイルが初期状態に戻ります。プロジェクトに対して行ったすべての操作がクリアされるので、注意しましょう。

たとえば、タスク1とタスク2を解答し、タスク3で操作ミスをしてリセットすると、タスク1やタスク2の結果もクリアされます。タスク1やタスク2の結果を残しておきたい場合には、リセットしてはいけません。

なお、リセットされるのは、現在表示されているプロジェクトだけで、ほかのプロジェクトには影響しません。

直前の操作を取り消したい場合には、Wordの  (元に戻す) を使うとよいでしょう。ただし、元に戻らない機能もあるので、頼りすぎるのは禁物です。

